



北京に吹いた風

開会式の招待状のない私たちがあつたが何としても入りたい一心で、話合いで詰め寄り席こそなかったが参加することができた。

スタジアムを埋めつくした世界中の女性の熱気は帰国後も忘れることができない。NGOフォーラム「テント18」で開かれた「女性と政治」を論じたワークショップでは、これからは世界の女性たちがもっと積極的に政治に参加し、女性自身の身分の確立を図るべきと感じた。

今回のフォーラムに参加して、一番目立って効果があつたのは何と言っても、190カ国がポスターや資料類をパネルに貼る事だった。世界の女性の瞳はこのポスターに釘付けになり、「ビューティフル」「ワンダフル」の声が連発であつた。持っていった130枚のポスターは全部出てしまった。

NGOフォーラム会場は2日目から大雨であつたにもかかわらず、各国から熱心な意見が飛び交い、特に開催地中国の環境問題会場は超満員で入ることすら出来なかった。またあらゆる場所で自由に民芸品等を展示して即売し、旅費を捻出している国の女性たちもあつた。

「平等・開発・平和」の世界女性会議のテーマを肌で感じようと、秋田を飛び立った私たちがあつたが、ワークショップを持ちフォーラムに参加して「エンパワーメント（力をつけること）」という言葉が認識できたように思います。

あすの秋田を創る生活協議会海外派遣団 阿部 恭子

国際交流の大切さ（言葉によって国の壁をなくす）

私は日本に在住して12年になります。生まれたのはアフリカのジンバブエです。1989年にはスイスの女性マリアン・リニガーと結婚し京都市から宮津市に変わりました。しかし京都市に教会を3ヶ所持っていますので京都と宮津を往復して1年7ヶ月になります。

私は、世界全部を我が国と見ています。それには言葉の壁を乗り越えることで、第一条件はその国の言葉を学ぶことだと思いました。

最初一年目でその国の言葉を学び、話すことができないと世界人として生きていくことはむずかしくなります。また限られた仲間になり自分が小さくなり、発展がありません。

私の心得ていることは、

1. 日本語で挨拶する。その時は相手の顔を見ています。
2. 言葉を短くすると必ずあやまちがあります。特に日本語は丁寧に話します。
3. 各国の言葉のチャンネルを頭につくりました。例えばフランス語・日本語・中国語・英語等です。

今私は国際交流の大切さを感じ、世界の人たちと仲良くするために、言葉によって国の壁を取ることに努め、平和な地球をつくりたいと日本の皆さんと仲良くしています。

ムズボンディワ・フンガイ・ニューマン



アメリカ研修より

吉村 むつ子

アメリカ研修より、あつと言う間に二年余りが過ぎていきます。NHKテレビ「大地の子」を見て、一緒だった友の顔が、なつかしく思い出されたのです。と言つのは、長い空の旅の退屈しのぎに持って行った本が、山崎豊子の「大地の子」だったからです。まわし読み、感涙しながら読み終わり、二人で話し合ったのが昨日の様な気がします。

戦争さえ、なかつたら、四人楽しく暮らせたはずの家族。戦争は、子供・老人・女性と弱者が一番の被害を受ける。「戦争はいやや」と二人で今の平和を喜び合いました。

同じ人間なのに、民族が違うだけで、思う場面があります。みんなが仲良く、ずっと平和でありたいと願わずにはいられませんが。

カナダのファミリーサービスの所長の言葉が今も印象に残っています。

「お互いに、相手の民族の言葉・習慣・文化をしっかりと理解しなければ、本当のボランティアは出来ない」という事です。

ファミリーサービスのボランティアは普通で二三ヶ国語出来、二十ヶ国語話せる人もいます。

国際交流と言われている今日、私達も他民族の方の交流に誤解が生じない様に、相手の文化をしっかりと理解し、又、私達の習慣文化を相手に伝える努力も必要かと研修で感じた次第です。

(京都市地域女性連合会)



闘いつづける、

アメリカ、カナダの女性たち

青木 妙子

ニューヨークで会った、NOWの幹部の「私たちのような活動家がいなければ社会を変えることは難しい」という発言は、印象深かった。

オクラホマ州政府副知事秘書に、お会いした時も「私は生まれた時から肌の色が黒いため今も差別を受けています。共に差別がなくなるまで闘いぬきましょう。」と熱っぽく語られた。

カナダオンタリオ州政府女性問題管理部では、性暴力やセクシユアル・ハラスメントなどの問題解決の対策として、テレビを利用して、一般市民に暴力を明らかにするための意識づけをして、黙認したり、泣き寝入りしたりせず、堂々と闘う姿勢を強く感じた。

これらのことは、経済的にも豊かで、女性に関する法制度も進み、女性問題の先進国といわれる、アメリカやカナダにあつても、未だ女性を取り巻く環境には厳しいものがあり、加えて、多民族国としての人種差別の問題も深刻であると言つこと、どの国にあつても、努力なくして、女性の地位も真の平等も得難いのだと、改めて感じさせられた。

(京都市女性連合会)